



なごや「聖歌」だより1月号2012

今月の予定

聖歌練習 名古屋:8日代式後 半田:今月はお休み

神現祭の練習。15日当日の朝も9時から行います。聖歌は神さまへの捧げものです。毎聖体礼儀後もミニ練習を行います。名古屋も半田も「みんなて歌える」聖歌をめざしてきました。「みんなで練習」しましょう。

名古屋指揮当番

15日エレナ広石 22日ピーメン松島 29日マリア松島

ズナメニイ研究会

今月はお休み。

知って祈ろう —奉神礼は面白い

安和の接吻、信経—愛と信仰の表明

神との交わり（領聖）に進む前に、最も大切な二つの要件、信徒互いの愛と信仰の一致が確認されます。

我等互に相愛すべし、同心にして受け認めんがためなり
父と子と聖神一体にして分れざる聖三者を

まず「安和の接吻」。至聖所内の聖職者が、互いの肩先に接吻を交わし、ここに神と隣人への愛に基づく平和があることを確認します(マタイ6:23)。今では至聖所内のみで行われますが、かつては信徒全員が男女に分かれて行っていました。

輔祭の呼びかけ「門、門」は「啓蒙者出よ」と同じく、信徒以外が退出したかどうかを門番に確認することばでした。安全を確認して信仰告白を行いました。

正教会が用いる信仰箇条は「ニケア信経（正式にはニケア・コンスタンティノーブル信経）」と呼ばれ、ニケア全地公会議（325）コンスタンティノーブル全地公会議（380）で採択されたものです。

信経はもともと洗礼時の信仰告白で、初期には地域によってさまざまな内容の信経が用いられていました。やがてローマ教会では主に「使徒信条」が定着し、東方ではもっぱら「ニケア信経」が用いられるようになりました。

古代の洗礼は3年ほどの準備期間を経たあと、大斎の始まりにその年の復活祭に洗礼を受ける者が「啓蒙者」として登録され、主教直々の徹底的な洗礼教育が行われました。その最終段階、受難週の頃になってやっと、口移しに「信経」が教えられました。信経の内容は洗礼を受けた信徒のみに明かされる神の秘密ですから、洗礼の直前まで教えられず、書き記すことも許されませんでした。受洗者は信経をしっかりと暗記して洗礼に臨みました。

4世紀の初めスペインの修道女エゲリアがエルサレムでの信経伝授のようすを書き記しています。

すでに7週間がすぎ、この地で大週間と呼ばれている復活祭前の一週間（聖週間）になると、朝、主教が大聖堂の致命者記念聖堂にやってきます。宝座の向こう側の後陣（アプス）の奥まったところに

主教の椅子が据えられ、そこに男は代父、女は代母に連れられて進み出て、主教の前で信経を唱えます。信経を唱え終わると、主教は皆に話しかけます。「この7週間、あなた方は聖書のすべての律法と信仰、肉体の復活について教えられました。また、啓蒙者に許された範囲で、信経のすべての教理を学びました。しかし、あなた方はまだ啓蒙者なのでさらに深い機密についての教え、つまり洗礼そのものについては聞くことができません。洗礼で行われること一つ一つが何の理由もなく行われたなどと思われないうちに、神の名によって洗礼を受けたら、復活祭後8日間にわたって、祈禱後（発放）のあと復活聖堂で説明を聞きます。

（『エゲリアの日記』太田強正訳サンパウロ書店）

信経が「聖体礼儀」の一部に組み込まれて行われるようになったのは5世紀頃アンティオキア教会からです。西方で「ニケア信経」がミサに取り入れられたのは1014年以降で、すでにフィリオケを含んだ形のものになっていました。フィリオケとは「聖神・主・生命を施す者、父より出で」の部分で「父および子より出で」を加筆した点で、神学的な問題だけでなく、教会のあり方にも深く関わってくるので、正教会は容認にできない改ざんとみなします。

信経はロシア系教会では会衆全員で歌われることが多く、ギリシア系教会では全員で唱えます。いずれにせよ、これから聖体礼儀の核心部分、聖変化、領聖へ向かう前に、洗礼の時に宣言した自らの信仰を神の前で告白し確認する大切な部分です。

2005年、英国のチャールズ皇太子の二度目の結婚式で、ロシア人の女性歌手を招待して正教会の『信経』が歌われ、話題になりました。

正教会では、信経を歌うことは、神の面前での信仰告白と考えますから、他教派の信仰箇条を歌うことは考えられませんが、まして将来英国国教会の首長となる皇太子の結婚式に他教派の信仰を告白することは大変奇異に思えますが、礼拝に対する考え方の相違です。

同様に、聖堂でコンサートなどを礼拝以外の活動を行うことも西方の教会では抵抗感なく行われますが、正教会では聖堂は神と出会い、洗礼を受けた信徒が神と交わる特別の場所と考えるので、極力避けます。

参考文献

『奉神礼』『教義』トマス・ホブコ著、西日本主教教区発行（教義は未発行）
P.Meyendorff, 『洗礼——キリスト教徒の入会儀式』講演録全文、<http://www.orthodox-jp.com/maria/PM-baptism.htm>
The Dictionary of the Christian Church, Oxford

ガードナーの『ロシア正教会の聖歌』は世界中で広く読まれている正教会聖歌の入門書です。ここでは現代日本の状況に合わせて適宜省略、解説を加えてご紹介しています。カリストス主教のFestal Menayon Lenten Triodionを参考にしました。

時 課

時課には歌の要素はほとんど含まれず、すべてが誦読される。構造としては以下の通りで、日によって変わる部分は、トロパリとコンダクのみ。

- I 1. 始まりの祝福「我等の神は崇め讃めらる…」
2. 天の王
3. 聖三祝文、至聖三者、天主経

(続けて行われるときはIの部分を省略してIIから始める)

- II 聖詠の読み「来たれ、ハリストス…」
1時課の場合は、聖詠、5, 89, 100
3時課の場合は、聖詠、16, 24, 50
6時課の場合は、聖詠、53, 54, 90
9時課の場合は、聖詠、83, 84, 85

- III 1. トロパリ (その日の)
2. 生神女讃詞
3. 聖書の句

IV 聖三祝文、至聖三者、天主経

V コンダク (その日の)

VI 時課の祈り

VII 司祭の発放と終結の祈り

王時課

特別の時課として降誕祭と神現祭の前晩、聖大金曜日に行われる王時課(царские часы)がある。かつてローマ皇帝が出席したことに由来する名称で、一時課、三時課、六時課、九時課を結合して連続して行われる。構成は通常の時課と変わらないが、以下の部分が付加され、歌の要素も多くなる。

<上記IIの聖詠の読みのもとに>

- III 祭のトロパリと特別の生神女讃詞、それから別のトロパリを両詠隊で交互に歌う。
ポロキメン。アンティフォン応答形式で歌う。
旧約の読み、書札の読み、福音の読み。

大聖堂で行われる主教祈禱の場合には、すべての時課が読まれたあと「萬寿詞」が歌われ、国の統治者の全タイトルを長輔祭が唱え、聖歌隊が応える。

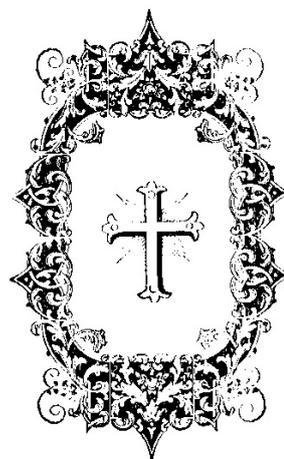
その他の祈禱について

ここまで歌が大きな役割を果たす課について述べてきた。この他にも晩堂課や夜半課のように大齋期、受難週、復活祭週間など特別の場合以外には目立った歌のない課もある。トロパリ、スティヒラなどが含まれるが、歌われず誦読される。

その他に(1)感謝祈禱、(2)パニヒダ(死者のための祈り)など、定期的な祈りのサイクルに含まれず、必要に応じて行われる祈禱がある。これらは基本的には早課の省略形である。

また、必要に応じて行われる祈禱としては、主教叙聖、司祭輔祭の叙聖、聖堂成聖、婚配式、埋葬式、聖水式などがあり、歌われる部分が多い。トロパリ、スティヒラなど他の祈禱に含まれたのと同じ聖歌がそのまま用いられる。

正教会の教会音楽は他の礼拝の諸要素から影響を受ける。聖職者が厳粛に至聖所へと行進する「聖入」の動き、主教(司祭)の祝福、炉儀、シャンデリアの点灯、消火、などティピコンに記された奉神礼的な動作、聖職者の奉神礼的な動き、参拝する信徒の動作と呼応し、聖堂の建築やアイコンやフレスコ画、すべてが音楽要素と一体となって、礼拝において統合された全体が形作られる。



ホームページのご案内

- 「なごや聖歌だより」のホームページ

<http://www.orthodox-jp.com/music>

なごや聖歌だよりのホームページの表紙で名古屋教会の聖歌が聞けます。

- 東方正教会の聖歌 <http://www.orthodox-jp.com/maria>

詳しく学びたい方のため正教会聖歌の特徴、聖歌の神学、歴史、など海外の資料も多数翻訳して掲載しています。

- 正教会奉神礼研究 *Liturgia*

<http://www.orthodox-jp.com/liturgy> 奉神礼や聖歌の実践資料